

二人の卒業生国連職員による講演会

はばたけ東女生! Part2



2018年に創立100周年を迎える東京女子大学では、「挑戦する知性*」プロジェクトの一環として学長主催講演会を開催しています。今回は、本学の育成する人物像「国際的な視野をもった地球市民としての女性」として活躍するお二人の卒業生から主に在学生に向けてのメッセージをいただきます。お二人は、長年、国連職員として専門的知識を活かして国際的貢献をなされています。

*創立100周年を迎えるにあたり、「挑戦する知性」をコンセプトとして決めました。

申込不要
無料

2015年10月8日(木) 14:55~16:25

場所 東京女子大学 23101教室 (23号館)

対象 在学生、同窓生、一般

問い合わせ先：東京女子大学 教育研究支援課
〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1
TEL：03-5382-6451

講演1 グローバルな職場、国連で働く

国連では世界中の国々出身の職員が、国際公務員として働いています。そのため、多様性を重んじる職場環境です。いろいろな母国語を持つ職員と一緒に働くためには、共通の言語、英語かフランス語で働く必要があります。勤務地はニューヨークの国連本部以外にも世界中に散らばっています。このようにグローバルな職場である国連で働くために必要な知識、スキル、またコンピテンシー（能力、適性）について、講師の経験や具体例も含めて紹介をすることで、東京女子大学の学生の将来の活躍の場が、グローバルに広がっていくことを願っています。



佐藤 純子氏

1971年東京女子大学文理学部史学科卒業。
1979年Long Island University, Parmer Graduate School of Library で図書館情報学修士号取得。
1980年~2008年にわたり国際連合ダグ・ハマースホルド図書館に勤務。2007年より早稲田大学大学院アジア太平洋研究科非常勤講師を務める。

講演2 世界が求める専門性—国際社会で輝くために

国連で職を得るためには、何がしかの分野で専門的な知識、スキルを持っていることが前提となります。講師は、どのように人口統計分野における専門的知識を身につけたか、自身の経験を披露したうえで、現在の国連業務にそれがどのように活かされているか、具体例をもって紹介します。世界が求める専門的知識を習得するということは、性差別の少ない職場で、また国際社会での活躍の場が広がることを意味します。東京女子大の皆さんには、是非、在学中に、自らが熱くなれる、一生をかけて極めたいテーマを見つけて欲しいと願っています。



大崎(富田) 敬子氏

1980年東京女子大学文理学部社会学科卒業。1985年米国Georgetown Universityで人口学修士号取得。
2001年米国Fordham Universityで社会学博士号取得。
1988年にニューヨークの国際連合経済社会分析局人口部に入局。在バンコク国際連合アジア太平洋地域経済社会委員会 (UNESCAP) 社会開発部を経て、現在、国際連合経済社会局統計部次長。

挑戦する知性



Tokyo Woman's Christian University

東京女子大学

2018年、創立100周年を迎えます。

